

(4) 実務と理論を統合する高度な専門教育の充実をはかるための具体的計画等

実務経験を持たない教員と実務家教員との共同研究を推進し、実務と理論とのギャップを埋める機会を積極的に提供する。

## 2. シラバスの提示

毎学年度の始めに、次の項目を盛り込んだ全科目のシラバスを学生に提示する。

- (1) 科目の目的と概要
- (2) 授業方法、各回の授業内容（テーマ・ねらい、講義内容の概略等）
- (3) 成績評価方法・基準
- (4) 準備学習等についての具体的な指示および他の科目との関連
- (5) 教科書・参考文献

## 3. 授業科目別成績統計表および定期試験問題の縦覧

本研究科では、実施した前学期の成績統計表や定期試験問題を一定期間全教員に縦覧することとしている。その趣旨は、各授業科目担当者が成績の結果を分析し、今後の授業計画、試験・評価基準の判断材料とすることにある。縦覧は、定期試験実施の翌学期早々に実施する。

<縦覧に供する帳票等>

- (1) 経営戦略研究科開講科目の問題用紙
- (2) 授業科目別成績統計表

### (点検・評価の結果)

第1クォータの全科目を対象に授業評価のアンケートを実施し、また、授業内容および授業方法の改善を図るために自己評価委員会を立ち上げた。自己評価委員会には授業評価・FDの検討を行う授業評価・FD部会と、教材・教授法の検討を行う教材開発部会を設けた。

講義内容については大学院要覧にて学生に周知するとともに、シラバスについては電子掲示板にて授業開始前から掲示しており、現在でもいつでも見られる状態にある。

### 11.3.6 学位授与・課程修了の認定

<開設時に設定した目標>

1. 早期修了履修コースの設定  
(専門職大学院設置基準第3条「標準修業年限の特例」)
2. 在学期間の短縮の設定  
(専門職大学院設置基準第16条「専門職大学院における在学期間の短縮」)

#### 【評価項目 6-6-1】 学位授与

- (必須要素) 修士・博士の各々の学位の授与状況と学位の授与方針・基準の適切性
- (必須要素) 学位審査の透明性・客観性を高める措置の導入状況とその適切性
- (選択要素) 修士論文に代替できる課題研究に対する学位認定の水準の適切性
- (選択要素) 学位論文審査における当該大学(院)関係者以外の研究者の関与の状況
- (選択要素) 留学生に学位を授与するにあたり、日本語指導等講じられている配慮措置の適切性

(現状の説明)

1. 経営戦略専攻

修了者には、経営管理修士（専門職）を授与する。

経営戦略専攻は経営管理分野に戦略的な視野を導入した専攻である。しかしながらこの分野で国際的に広く通用する学位はMBA（Master of Business Administration）であり、本専攻でもMBAのグローバル・スタンダードにもとづいたカリキュラムに戦略的要素を付加したプログラムを提供している。MBAの日本で最も広く使われている訳語は「経営管理修士」であり、本専攻もこの学位名を用いることとする。

英文名称は、Master of Business Administration（略称：MBA）とする。

2. 会計専門職専攻

修了者には、会計修士（専門職）を授与する。

会計専門職専攻のカリキュラムでは、新公認会計士試験制度によって要求される試験科目と国際会計士連盟（IFAC）の国際教育基準を尊重して科目を設定している。

英文名称は、Master of Accounting（略称：MAcc）とする。

【評価項目 6-6-2】 課程修了の認定

（必須要素） 標準修業年限未満で修了することを認めている大学院における、そうした措置の適切性、妥当性

(現状の説明)

1. 経営戦略専攻

修了要件を、2年以上在学し、44単位以上を修得することとする。

ただし、入学時の申請により、次のとおり修業年限や在学期間を短縮することができる。

(1) 早期修了履修コース（修業年限1年6カ月）

（専門職大学院設置基準第3条「標準修業年限の特例」）

社会人を対象に、早期修了履修コースにより修了必要単位数を修得した場合は、1年6カ月の修了を可能とする。早期修了履修コースは、通常の授業期間以外に設定された授業科目を積極的に履修し、履修制限は1年目30単位であるが2年目と同様の40単位に緩和して、2年間で修得する修了必要単位数を1年6カ月で修得するコースである。コースの内容は、次のとおりである。

a) 「企業経営戦略コース」早期修了履修コース

通常の履修は、授業期間中の夜間と、週末の授業であるが、夏季集中開講授業科目及び冬季集中開講授業科目や昼間開講の国際経営コースの授業科目を積極的に履修し、2年間で修得する修了必要単位数を1年6カ月で修得するコースである。入学時に履修コースの申請を行う。

b) 「国際経営コース」早期修了履修コース

通常の履修は、授業期間中の昼間であるが、夏季集中開講授業科目や冬季集中開講授業科目、夜間開講の企業経営戦略コースの授業科目を積極的に履修し、2年間で修得する修了必要単位数を1年6カ月で修得するコースである。入学時に履修コー

スの申請を行うものとする。

## (2) 在学期間の短縮

(専門職大学院設置基準第16条「専門職大学院における在学期間の短縮」)

入学前の既修得単位数は、入学時において修得科目と学生の学習程度に応じて20単位を限度として認定するが、その既修得単位により早期に修了必要単位数を満たせる場合は、その既修得単位数に応じて、1年以上2年未満の範囲内で早期の修了を可能とする。

例えば、他大学院において基礎になる科目を既に修得していれば、コア科目群・ベーシック科目群の中から必修科目を除いて相当する科目に単位認定し、また、科目等履修生によって本研究科で既に修得している科目があれば、すべての科目群から該当科目を単位認定する。

## 2. 会計専門職専攻

修了要件を、2年以上在学し、48単位以上を修得することとする。

ただし、入学時の申請により、次のとおり修業年限や在学期間を短縮することができる。

### (1) 早期修了履修コース（修業年限1年6カ月）

(専門職大学院設置基準第3条「標準修業年限の特例」)

社会人を対象に、早期修了履修コースにより修了必要単位数を修得した場合は、1年6カ月の修了を可能とする。早期修了履修コースは、通常の授業期間以外に設定された授業科目を積極的に履修し、2年間で修得する修了必要単位数を1年6カ月で修得するコースである。コースの内容は、次のとおりである。

#### a) 「会計専門職専攻」早期修了履修コース

通常の履修は、授業期間中の昼間が中心であるが、夜間開講の科目や週末の開講科目を積極的に履修し、履修制限は1年目30単位であるが2年目と同様の40単位に緩和して、2年間で修得する修了必要単位数を1年6カ月で修得するコースである。入学時に履修コースの申請を行うものとする。

### (2) 在学期間の短縮

(専門職大学院設置基準第16条「専門職大学院における在学期間の短縮」)

入学前の既修得単位数は、入学時において修得科目と学生の学習程度に応じて20単位を限度として認定するが、その既修得単位により早期に修了必要単位数を満たせる場合は、その既修得単位数に応じて、1年以上2年未満の範囲内で早期の修了を可能とする。

例えば、他大学院において基礎になる科目を既に修得していれば、コア科目群・ベーシック科目群の中から必修科目を除いて相当する科目に単位認定し、また、科目等履修生によって本研究科で既に修得している科目があれば、すべての科目群から該当科目を単位認定する。

### (点検・評価の結果)

2005年4月に、「早期修了履修コース」は、経営戦略専攻企業経営戦略コース18名、国際経営コース1名、会計専門職専攻13名の申請者があった。また、「在学期間の短縮」は、経営戦略専攻3名、会計専門職専攻6名の申請者があった。